

# 歯車

学校だより

河北町立西里小学校

令和二年七月三十一日

## 大雨の後で

校長 船山 聡

大雨の降っていた日のこと。休み時間に傘を差してグラウンドを横切る女の子たちを見つけました。畑の様子でも見に行くのかな。それとも、雨の中を歩きながら、流れる水でも見るのかな。すると、見かねた担任が窓を開けて、「こんな雨の中を何してる！」と注意をしました。女の子たちは、しずしずと戻ってきて、学校へ入りました。

女の子たちは、何をしたかったのでしょうか。後で話を聞くと、大雨でプールの水があふれているか、見たかったのだそうです。

ふと、そんなことを思い出しました。

ちょうど、「避難所」という紙が、社会体育の入り口から外された午後でした。子ども達は、また突然の臨時休業で家にいます。もしも、子ども達が学校にいたら、誰かが私を見つけて、「何するの？」と聞きましたはずです。だれもないプールの鍵を開けました。

プールには、珍しい住人がいました。カモの夫婦です。突然の訪問者に驚いて、南の方角にばたばたと飛んでいきました。プールの中をのぞいてみると、ボウフラなどいなくて、冷たい抹茶のような色をしていました。曇り空にアメンボの姿はなく、カモの羽がいくつも風にゆれて浮かんでいました。女の子たちが気にしていたプールの水は、やはり大雨であふれていて、プールサイドの排水溝に流れていました。

子どもは、いろんなことを考えているんだな、と思いました。

一学期の終業式で話すことを考えています。

マスクをし、手洗いをこまめに行い、ソーシャルディスタンスと言われる人との間隔をとり、密閉、密集、密接という三密に気をつける「新しい生活様式」に取り組んできたみなさんをほめたいと思います。学校での感染防止の取り組みは、夏休みになれば、自分で取り組んでいかなくてはなりません。それがどこまでできるか、少し心配です。新型コロナウイルス感染症は、全国にどんどん広がっています。みなさん、十分に気をつけましょう。事故も心配です。大雨で水かさが増して、見たことのないような川の流れを、見に行つてはいけません。自転車に乗る時は、油断せず、スピードを出さないように気をつけましょう。宿題も毎日少しずつやることです。少しずつやることで、少しずつ力がついてきます。食べ物と同じで、勉強は頭の栄養です。一気に食べても栄養になりません。お手伝いもがんばりましょう。自分の時間を誰かのために使うというのは、とてもすてきなことです。自分の命は自分で守り、心に残る楽しい夏休みにしましょう。それが、先生方みんなの願いです。

たぶん、こんな感じの話をすると思います。しかし、子ども達は、夏休みのことで頭がいっぱい。もう少しで、夏休み。やつと明日から夏休み。この瞬間が、一番わくわくします。

人類の歴史の中で、戦争、自然災害、伝染病が人の生活を一変させたと言われます。特に、自然災害と伝染病は、今やどこでも、山形でも起こります。今後、その問題は、さらに深刻化するでしょう。夏休みに入つても、気の抜けない日が続きます。

一学期、ありがとうございました。  
どうぞ、ご自愛ください。

